

自己マネジメント研修 レポート

7月7日(金)栃木県学校生協会館において、採用1年目の事務職員を対象とした「ステージⅠ 基本的力量形成期研修～自己マネジメント～」を開催しました。講師に、那須塩原市立東原小学校 高野嘉優 主任と高根沢町立西小学校 檜山真美 主任を迎えました。

研修に入る前に、栃事研会長 廣田則子事務長 から 栃事研活動の概要を、栃事研副会長 繪面裕事務長からは「研修の体系化」の概要と、その具体的な取り組みについて説明がありました。参加者は、少し緊張した面持ちの中、手元の資料にメモを取りながら真剣なまなざしとともに、話に耳を傾けていました。



講義に先立ち、グループ内で自己紹介を行いました。一人の持ち時間は、1分30秒。自己紹介内容には、目指す事務職員像や仕事の話、好きな給食のメニューや趣味の話などを盛り込みます。決められた時間の中で、話題を必死に探す人や時間をオーバーしても話し足りない人など、様々な様子がかげえました。その自己紹介を聞いた他の参加者は、星型のカード（キラキラカード）に「いいね!」と思ったところを書き、発表者にプレゼントしました。たくさんの「いいね!」

のやりとりで気持ちがほぐれたのか、少しずつ笑顔が見えてきました。このキラキラカードは、昼休みに壁面に貼り出しました。お互い、「こんなところが褒められてるんだね」「笑顔が素敵な人、いいね」など話題にしながら眺める姿がありました。お互いの良さを見つけ伝えることが、お互いの理解につながることを感じられたと思います。

講義では、「マネジメントとは求める目標に向かって効率的・効果的に動くために、資源を統合し、調整すること」とし、マネジメントの概略を押さえることから始まり、そこから「自己マネジメント」に焦点をあてて掘り下げていきました。「自己マネジメントとは『自分で自分を律し、目的を達成するためのタスクやスケジュールなどを効果的に管理すること』であり、そこに向けて自分の力を発揮していくには、自らの置かれた立場や職場を知ることを通して、自分の貢献対象を知り、自分には何ができるのかを知っていくことが不可欠。」という話のあと、実際に仕事を進めていく上での意識すべき4つのポイント「仕事そのものの管理（タスクマネジメント）」「時間の管理（タイムマネジメント）」「自らの自身の調整（コンディショニングマネジメント）」「最適な協働関係（コラボレーションマネジメント）」、そして、どうしていきたいのかを「決意する」ことが大切というお話がありました。





続いての演習では、受講者が現在抱える課題や悩みの共有化を図りました。事前課題をもとに、現在の悩みや課題を付せん紙に書き出し、説明を加えながら模造紙に貼りだしていきました。そして、それらをカテゴリー別に分けてきました。各班には今年度採用2年目の先輩事務職員に入っただき、経験談を話していただきました。それらを参考にしながら、それぞれの課題を解決していくにはどうしたらよいかをグループで考えました。グループ内には、大規模校の複数配置者や中規模校・小規模校での単数配置者、高卒、大卒、社会人経験者など

様々な新規採用者がいましたが、互いの発表を聞きながら、共通の悩みや課題に相槌を打つ姿や、新たな視点の課題に触れ、自分の今後を考える姿などがうかがえました。

次に、今年採用7年目になる先輩事務職員、宇都宮市立御幸小学校 高山彩 主事から「“学校”事務として～今までのこと、そしてこれからのこと～」と題してお話をいただきました。採用1年目は「とにかく人に頼る」「同期のネットワークを駆使して一緒に解決する」などして乗り越え、2年目からは「仕事の中で少しずつ些細なことに気づけるように」「独りよがりにはならないよう、職員とのコミュニケーションを図った業務改善」を心掛けたそうです。「自分の悪いところも良いところも自分で知る」そして、「“学校”事務職員である以上、積極的に子どもたちと関わってほしい」というメッセージを伝え、話を締め括りました。失敗談を交えた飾らない等身大の先輩の経験談に、参加者は共感するとともに、これからのキャリアイメージを膨らませることができたようでした。



最後の演習では「自分自身の強み」と「自分の周りにある強み」について考えました。そして、本日の講義で学んだタイムマネジメント（いつまで）、と、自分の持っている強みを生かすこと（どうやって）等の考え方を踏まえて、各自の課題解決に向けた目標と実行策を考えました。グループ内で実行宣言をそれぞれした後、さらにそこから1つの課題を選び、チームとして、いろいろな視点から解決策の検討を行いました。

研修の終わりに、「目指す事務職員になるためには、小さな目標の積み重ねが大切であり、これがキャリアを形成するプロセスなのです」というお話がありました。今回、参加者がたてた実践目標もこの小さな目標の一つです。5ヶ月後には、PDCAサイクルの視点を踏まえた、各自の実践目標に対する事後レポートを提出してもらう予定です。参加者の皆さんには、今回の研修で学んだことを少しでも学校で活かしていただき、一歩一歩、課題を乗り越えながら目指す目標へ向かって進んで行って欲しいと思います。